

【 国語 現代文 3 学年 】

授業者 佐賀県立多久高等学校 教諭 木下 圭文

◇単元名

評論Ⅱ 『広告の形而上学』岩井克人（「現代文新訂版」筑摩書房）

◇単元の目標

身の回りにある事象を取り扱った抽象度の高い文章を、文章の構成や具体例を通して理解する。

◇本時の目標

「広告」が「貨幣」と同じように「形而上学的な奇妙さに充ち満ちた逆説的な存在」であることを、特に第2，3段落の表現や具体例を通して理解する。

◇配慮や工夫

本時の学習は、抽象度の高い評論文を読解することをねらいとしている。抽象的な文章の理解を苦手とする生徒が多いので、文章の構造や本文の内容を理解しやすくする指導の工夫が必要となってくる。

そこで、本時の学習において次のような配慮や工夫を行っていく。

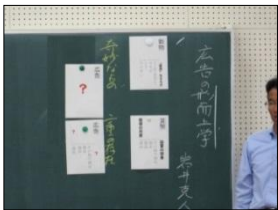
導入では、見通しをもたせるために、前時の学習内容の要点を図で提示して振り返らせる。また、その図を基に本時の学習を確認させる。

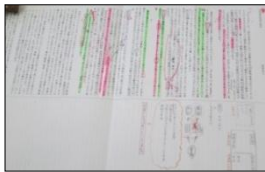


展開では、本文とノートを一元化し、1枚のワークシートにまとめ、本文の全体像を把握しやすくする。電子黒板にワークシートと同じ形式の文章を提示することで、ワークシートに書き込む箇所が分かるようにする。生徒には、内容や言葉を精選した板書をワークシート下部のノート部分に記入させることで、書き写す量を減らし、内容の理解に集中できるようにする。また、文章の構造や文中の具体例を図示するなど、生徒が文章内容をイメージしやすいようにする。さらに、ワークシートに自分の考えの根拠となる文章に線を引かせ、周囲の人との話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを確認しやすくする。

まとめでは、学習内容を振り返らせるために、本文への書き込みや板書したものを振り返り、学習した内容を確認できるようにする。



次の「本時の学習活動と具体的な学習環境」の「具体的な学習環境等」にある**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**とは、授業者が工夫をして取り入れたり、生徒アンケート等で効果が表れていたと捉えたりしている学習環境です。具体的な内容については、後の「取り入れた学習環境の実際と生徒の様子」で詳しく説明しています。また、各**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**の下にある〈 〉内の言葉は、生徒が抱える苦手さの領域を示しています。

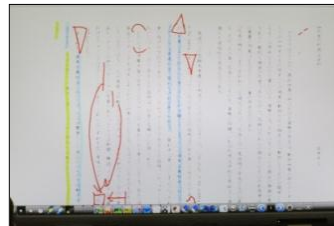
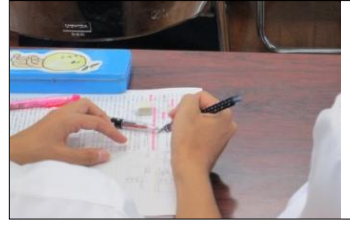
◇本時の学習活動と取り入れた具体的な学習環境


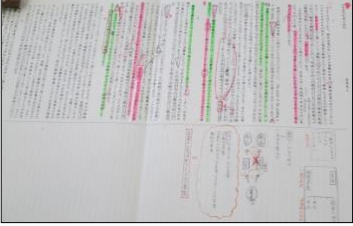
過程	主な学習内容	具体的な学習環境等
導入	1 前時の内容を振り返り、本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を想起させるために、前時の要点と本時の内容をまとめた図を黒板に提示する。【学習環境Ⅰ】 
	2 第2段落を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ワークシートの本文(第2段落)を黙読し、要点に印を付ける。 周囲の人と印の箇所を確認する。 内容を理解するために教師の説明を聞く。 電子黒板に付けられた印をワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の考えをもちやすくするために、内容を理解する際にポイントとなる言葉や表現を説明する。 ゆっくりと大きな声で説明する。 書き込む箇所が分かるように、電子黒板にワークシートと同じ文章を提示する。【学習環境Ⅱ】



	<p>(5) 第2段落をまとめた板書を書き取る。</p> <p>3 第3段落を理解する。</p> <p>(1) ワークシートの本文(第3段落)を黙読し、要点に印を付ける。</p> <p>(2) 周囲の人と印の箇所を確認する。</p> <p>(3) 内容を理解するために教師の説明を聞く。</p> <p>(4) 電子黒板に付けられた印をワークシートに書き込む。</p> <p>(5) 第3段落をまとめた板書を書き取る。</p> <p>4 第3段落の内容に即した実際の広告について考える。</p> <p>(1) 実際の例を考え、周囲の人と確認する。</p> <p>(2) 具体例を発表する。</p> <p>5 企業が広告に費用を投じる理由について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文とノートを一元化し、ワークシートにまとめ、本文の全体像を把握しやすくする。【学習環境Ⅲ】 内容の理解に集中できるように、板書の内容を精選し、書く量を減らす。【学習環境Ⅲ】 イメージしやすいように、黒板に「消費者」「広告」「商品」の関係をチョークの色を工夫して図示する。【学習環境Ⅲ】  <ul style="list-style-type: none"> 読み方の難しい漢字にはふりがなを付ける。 生徒が自分の考えをもちやすくするために、内容を理解する際にポイントとなる言葉や表現を説明する。 ゆっくりと大きな声で説明する。 書き込む箇所が分かるように、電子黒板にワークシートと同じ文章を提示する。【学習環境Ⅱ】 内容の理解に集中できるように、板書の内容を精選し、書く量を減らす。【学習環境Ⅲ】 段落間の関係が分かるように、第2段落の図に違う色のチョークを使って書き足す。  <ul style="list-style-type: none"> 身近な具体例を想起するように言葉を掛ける。 机間指導しながら話合いの様子を確認し、話合いの進んでいないところには言葉を掛ける。 3段落の内容に即しているか確認する。 重要な説明は繰り返してゆっくりと話す。 携帯電話や缶コーヒーの具体例を基に、本文の内容について説明する。【学習環境Ⅳ】 板書や考えた具体例を基に、理由を考えるように言葉を掛ける。
<p>ま と め</p>	<p>6 本時に学習した内容を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文への書き込みや板書したものを振り返り、学習した内容を確認する。 ワークシートをファイルに綴るように言葉を掛ける。 次時の学習の内容(第4・5段落)を伝える。 

◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

学習環境Ⅰ 〈聞くこと〉	前時の学習内容と本時の学習内容を確認するために、要点をまとめた図を提示する。
取り入れた意図	言葉だけでイメージすることが苦手な生徒にとって、前時の学習内容の要点と本時の学習内容を図でまとめ、視覚的に提示することで、前時の学習内容を短時間で想起させ、本時とのつながりを意識して学習に取り組むことができるようにする。
[前時の要点をまとめた図] 	生徒の取組の様子 前時の学習内容の要点をまとめた図を提示して振り返った。 次に、本時の学習内容について、黒板に提示された前時の学習内容の要点の図と関連させながら説明した。生徒は、前時と本時の関連について、前時に記入したワークシートと黒板を見比べながら説明を聞いていた。生徒アンケートの結果では、普段の授業よりも見通しをもって取り組むことができたと答える生徒が多くいた。
[本時の学習内容の図] 	
[学習環境の考察] 現代文の読解の授業では、前時の学習内容を関連付けながら、全体の文章構成を理解していくことが重要である。そのため、言葉だけでイメージすることの苦手な生徒にとって、前時の学習内容の要点と本時の学習内容を視覚的に提示して説明を加えることで、前時と関連付けた見通しをもつことができ、本時の学習に取り組みやすくなると思われる。	

学習環境Ⅱ 〈見ること〉	ワークシートの文章に書き込みをする際に、電子黒板にワークシートと同じ文章を提示する。
取り入れた意図	言葉による指示や説明だけでワークシートに記入することが苦手な生徒にとって、記入する見本が電子黒板に提示されることで、書き込む箇所や内容が分かりやすくなる。
[電子黒板に書き込まれた要点] 	生徒の取組の様子 言葉による説明だけで聞き取れなかった生徒は、電子黒板を確認しながらワークシートに書き込んでいた。普段の授業であれば、指示された色を使い分けられない生徒もいるが、本時の授業では、色の使い分けをしながら、線の色や種類、書き込む箇所を間違えずに指示通り記入していた。 また、普段の授業では、言葉による指示を聞き取れないと、途中で書くことを諦めてしまう生徒もいたが、本時の授業では、言葉による指示を聞き漏らしても、電子黒板に書き込む内容が提示されており、全員が最後までワークシートに記入することができていた。
[ワークシートに書き込む様子] 	
[学習環境の考察] 言葉による指示や説明だけでワークシートに記入することが苦手な生徒にとって、電子黒板で生徒と同じ形式のワークシートを提示することで、書き込む箇所と内容が分かりやすくなったと考える。また、電子黒板に見本が提示されることで、教師の言葉による指示が短くなり、机間指導の時間が確保できた。	

学習環境Ⅲ 〈書くこと〉	生徒が書く量を少なくするために、精選した言葉や図を用いて板書する。
取り入れた 意図	「書くこと」に時間が掛かる生徒にとって、板書量を精選することで、書く時間が短くなり、生徒が聞くことや考えることに集中しやすくする。
 <p data-bbox="236 566 491 600">[内容を図でまとめる]</p>	生徒の取組の様子 重要な語句を用いて段落の内容を図示すると、教師の説明を聞いた後、ワークシートに書き写して確認していた。その後の話し合い活動では、これらの図を確認しながら、身近な具体例を周囲の友達と一緒に考える姿が見られた。
<p data-bbox="172 656 555 689">[書く量を減らしたワークシート]</p> 	生徒の取組の様子 板書量を少なくしたので、生徒は短い時間で書き写していた。本文の下部にノートとして使用できる罫線欄を設けたワークシートを用意したことで、本文と対応させて板書を記入している生徒もいた。
[学習環境の考察] 「書くこと」に時間が掛かる生徒にとって、板書量を減らしたことで、書く量や時間が減り、話を聞く活動や考える活動に取り組めるようになった。また、本文とノートを1枚のワークシートにしたことで、学習後に本文と板書の内容のつながりが分かりやすくなり、文章全体の理解につながったと考える。	

学習環境Ⅳ 〈読むこと〉	抽象的な文章の理解を図る際に、身近な具体例を視覚的に提示したり、具体例を考えさせたりする。
取り入れた 意図	抽象的な内容を理解することが苦手な生徒にとって、身近な具体例について考えることで、抽象的な概念をイメージしやすくする。
<p data-bbox="292 1370 475 1404">[具体例を知る]</p> 	生徒の取組の様子 電子黒板に身近な具体例（プリン、缶コーヒー、携帯電話）の写真を提示すると、全員が顔を上げて見ている。具体例を提示したことにより、本文の内容が理解できた生徒もおり、うなずきながら説明を聞いている姿も見られた。
<p data-bbox="228 1628 539 1662">[身近な具体例を話し合う]</p> 	生徒の取組の様子 電子黒板に提示された具体例を参考にしながら、2～3人のグループになって、具体例を出し合った。どのグループも活発に話し合っている姿が見られた。話し合い後に、教師が具体例を紹介すると、生徒たちは、「あ～」と納得したような反応をしていた。
[学習環境の考察] 抽象的な内容を理解することが苦手な生徒にとって、抽象的な概念を身近な具体例に置き換えることで、内容の理解が助けられたと考えられる。その際に、電子黒板を用いて視覚的に具体例を提示することで、よりイメージしやすくなると考える。	